

令和6年2月28日（月）10:00～11:30

会場：帯広養護学校寄宿舎食堂
司会：副校長 記録：教頭

令和5年度 第3回 北海道帯広養護学校 学校運営協議会 記録

出席者：戸田竜也 委員長（北海道教育大学釧路校 准教授）
笹山美香 委員（十勝障がい者総合相談支援センター 相談支援課長）
林香織 委員（社会福祉法人 慧誠会 十勝あおぞら 所長）
出村行敬 委員（大昭電気工業株式会社 代表取締役会長）
吉田隆佳 委員（北海道帯広養護学校 PTA 会長）
山田幸司 委員（西13号町内会副会長）
業天誉久 委員（北海道帯広養護学校 校長）

土居彰一副校長（司会）、長島英子教頭（記録）、杉原貴彦事務長

- (1) 校長挨拶
業天校長より挨拶
- (2) 出席者紹介
土居副校長から本日の出席者の紹介
- (3) 説明「令和5年度学校評価について」
土居副校長より説明
- (4) 説明「令和6年度北海道帯広養護学校ランドデザイン（案）及び学校経営方針（案）について」
業天校長より説明
- (5) 助言
- (6) 連絡
令和6年度の学校運営協議会委員の推薦について
- (7) 校長挨拶
業天校長より挨拶

委員からの助言・感想

○来年度のグランドデザインは明確で分かりやすいと複数の感想があった。

- ・子どもの実態（障害・発達・生活）から指導がスタートする。
- ・指導の積み上げには遅効性があることを考慮することが必要。
- ・学校での評価～12年間の系統性＝確かな接続（小・中・高の引継）

○養護学校と地域とのつながりについて、関係機関（福祉機関）との連携を深めたり、情報発信したりすることで、学校のことを知ってもらうことも必要との助言があった。

- ・自立支援協議会の活用
- ・就労先の見学・体験
- ・情報発信の工夫～内容、方法

○保護者との連携についての助言があった。

- ・教員の日常や悩み、思いを発信することが保護者の理解につながり、よりよい連携につながる。

○地域住民と地域での協力・協働による教育活動についての助言があった。